

平成 30 年9月 14 日

会員 各位

新潟県薬剤師会 会長 山岸 美恵子  
新潟県病院薬剤師会 会長 外山 聡

平成 30 年度患者のための薬局ビジョン推進事業

「薬薬連携で生きる！ポリファーマシー対策研修会」の開催について(ご案内)

日頃から当会の業務運営に多大なご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、新潟県薬剤師会では新潟県を通じて標記厚労省事業を受託し、新潟県病院薬剤師会と連携して地域包括ケアシステムの下で薬局薬剤師と病院薬剤師がそれぞれの役割を担えるよう、モデル病院におけるポリファーマシー事例の薬学的管理及び薬薬連携等について検証を行うこととしており、併せて、ポリファーマシーに関する人材育成として標記研修会を企画いたしました。

現在、国が薬剤師へ求めている役割の1つに医薬品適正使用の推進があげられており、特に多剤投薬(ポリファーマシー)に関しては、残薬や薬物有害事象などが問題となっています。

そこで、この研修会は、薬局薬剤師と病院薬剤師がポリファーマシー対策に関するワークショップ形式の研修に共に参加することで、薬薬連携を図り、より効果的な医薬品適正使用を図る目的で下記のとおり開催いたします。参加をご希望の方はメール(moushikomi@niiyaku.or.jp)またはFAX(025-281-7735)で県薬事務局へお申込みください。会場の関係で定員を設けておりますので、ご了承ください。

記

- 日 時 : 平成 30 年 11 月 11 日(日)10:00～16:00
- 場 所 : コープシティ花園「ガレツホール」(新潟市中央区花園1丁目2番2号)
- プログラム: 別紙をご参照ください。
- 参加費 : 会員・会員以外 無料
- 対象及び定員: 薬局薬剤師・病院薬剤師 120 名
- 申込み方法: 県薬事務局あてに、メール(moushikomi@niiyaku.or.jp)又は FAX(025-281-7735)にて参加申込書を送付してください。
- 申込み〆切: 10 月 31 日(水)
- そ の 他 :

- ・定員に達し次第、受付終了といたします。お早めにお申込みください。
- ・日本薬剤師研修センターと日病薬病院薬学認定薬剤師制度(カリキュラム区分V-3「患者特性」)の研修シールが発行される予定です。出席者1名につき、いずれかの研修シール3単位を交付いたします。
- ・JPALSコード「15-2018-0056-101」で、プロフェッショナルスタンダードは主に「2」に該当します。
- ・ご希望の方にお弁当を850円(お茶付、税込)で販売します。申込みの際にご注文ください(急遽欠席される等、お弁当をキャンセルできない場合には、後日実費を徴収させていただく場合があります。)

\*\*\*\*\*「薬薬連携で生きる！ポリファーマシー対策研修会」参加申込書\*\*\*\*\*

新潟県薬剤師会 事務局 行(メール moushikomi@niiyaku.or.jp、FAX025-281-7735)

月 日

ふりがな 氏名				勤務先名 連絡先(電話)	☎
会員区分	県薬会員	県病薬会員	該当なし	勤務先市町村区	市( 区) *新潟市の場合、区までご記載ください
ポリファーマシー対策事例の経験	有	無		昼食申込み	希望する 希望しない

## 別紙

### <薬薬連携で生きる！ポリファーマシー対策研修会 プログラム>

■ 日時:平成 30 年 11 月 11 日(日) 10:00 ~ 16:00

■ 場所:コープシティ花園「ガレッソホール」

■ ファシリテーター:新潟県薬剤師会・新潟県病院薬剤師会 担当者

■ スケジュール:

10:00-10:05	開会挨拶(新潟県薬剤師会 会長 山岸美恵子)
10:05-11:05	講演「演題名」(ポリファーマシー対策の概念に関するご講演) 東京大学医学部附属病院 老年病科 小島太郎 先生
11:05-11:50	講演「高齢者への安全な薬物療法ガイドライン 2015 の活用方法」 新潟南病院 武藤浩司 先生
11:50-12:35	講演「薬剤師に必要な臨床検査値についての知識」 下越病院 長井一彦 先生
<昼食休憩(45分)>	
13:20-15:50	ワークショップ「ポリファーマシー対策」 上越地域医療センター病院 宮川哲也 先生
15:50-15:55	まとめ
15:55-16:00	閉会挨拶(新潟県病院薬剤師会 会長 外山聡)

■ お問い合わせ先:

新潟県薬剤師会 事務局 担当 齊藤、長谷川

〒950-0941 新潟市中央区女池 1-3-16

TEL 025-281-7730、FAX 025-281-7735、E-mail bungyou@niiyaku.or.jp

#### ポリファーマシー:

単に服用する薬剤数が多いのみならず、それに関連して薬物有害事象のリスク増加、服用過誤、服薬アドヒアランス低下等の問題につながる状態。

#### 薬物有害事象:

薬剤の使用後に発現する有害な症状又は徴候であって薬剤との因果関係の有無を問わない概念

(「高齢者の医薬品適正使用の指針(総論編)について」

〈平成 30 年 5 月 29 日、医政安発 0529 第 1 号、薬生安発 0529 第 1 号)より)